

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.46 (2020.1.27)

令和元年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
顧客満足(CS)と従業員満足(ES)の向上
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

皆さん新年明けましておめでとうございます。令和になって初めての正月もあっという間に過ぎ去り一ヶ月が経過しようとしています。本格的な降雪が無いままに2月を迎えることは誰も予想だにしなかったことであり、地方経済にはプラスマイナス両方の影響が出ています。自然の事ですので私たちは受け入れる他ありませんが、地球温暖化については改めて考えさせられます。

昨日2004年に97歳で亡くなった農学者の遠山正瑛氏についての話を聞く機会がありました。山梨県生まれの遠山氏は京都大学を卒業後1934年28歳の時に外務省から中国における農業の調査研究留学の機会を得て訪中、ゴビ砂漠が農地を侵食し2000万人以上の餓死者が出ている状況に衝撃を受けました。日中戦争勃発により二年後に帰国するまで留学していた遠山氏は1971年に京大を退職後に私財を投げうって再度単身訪中、1930年代に村が有った場所は砂漠化が進みゴーストタウンになり2000万人以上の難民が発生していました。気温40度の中砂を掘っては水源を探し、ヤギの食害・スパイ容疑などの多くの苦難にも屈することなく葛やポプラの木を植えて緑化に取り組み100万本の植林に成功しました。

(一社)倫理研究所の丸本征雄名誉研究員は1992年に遠山氏の活動に共鳴、研究所とは関係なく個人で植林に参加するようになりました。丸本氏は砂漠緑化の意義と重要性を倫理研究所に訴え続け、ついに5年後の1997年に倫理研究所のスタッフが訪中。2000年には研究所創立55周年記念「地球倫理の森緑化事業」として、55,000本の植林を実施、かつての砂漠は緑の森として蘇ったのです。

内モンゴル大学で苦学して日本語を学んだ于振忠氏は中国奥地のグブチで通訳として働いていました。1980～90年代は日本から多くの観光客や視察団が中国を訪れていました。ところが当時の日本人の多くが中国人ガイドを奴隷の様に扱い、于氏はペットボトルを投げつけられたこともあったそうです。あこがれていた日本人でしたが、逆に日本人って何て奴らだと嫌悪感がつのり今回の仕事を最後にして辞めようと思った最後のお客様が丸本氏率いる倫理法人会の緑化隊、同じ日本人の経営者でもこんなに温かく親切な人達もいるのだと思い仕事を辞めるのを思いとどまったということでした。

この1999年の丸本氏と于氏の運命的な出会いがその後の緑化運動を加速化、20年が経過した現在中国各地における大緑化事業へと発展し40万本を超える植林が行われ続けています。もうすぐ春になり黄砂の季節を迎えます、是非ゆるぎない信念を持った先人たちが始めた緑化事業が、現在も受け継がれ行われている中国の地に想いを馳せてみましょう。

当社の社是は「不易流行常念必現」です。常念必現とは常に念じていれば必ず実現するという意味です。上記の話は思いを叶えるためには信念を練り固め、文字にし・人に伝え・己に誓うことが大事なのだと教えてくれます。令和二年のスタートに当たり、改めて社員全員思いを同じくしてそれぞれの事業に取り組んで参りたいと思います。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

真室川雄勝道路起工式

12月14日秋田山形両県の県境をまたぐ真室川雄勝道路の起工式が御法川国交副大臣も出席され行われました。予算措置にもありますが、およそ7年で全線供用開始が期待されます。



湯沢市綱引選手権大会

1月5日、湯沢市総合体育館において小中学生や一般のチームの参加により開催されました。レクリエーションの部(一般)の結果は高瀬電設さんの2チームの1・2フィニッシュ。12日に秋田市で行われた全県大会でも優勝したとの事です。



湯沢商工会議所新年祝賀会

1月10日、湯沢商工会議所主催の新年祝賀会が開催されました。寺田参議院議員・堀井副知事・鈴木市長・安藤町長・佐々木村長他多くのご来賓の皆様に参加頂きました。

